

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月23日

【評価実施概要】

事業所番号	2796400014
法人名	社会福祉法人 美木多園
事業所名	グループホーム 美樹の園
所在地	大阪府堺市小代414番地15 (電話) 072-284-1555

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月30日	評価確定日	平成20年6月18日

【情報提供票より】平成20年2月1日事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 6 月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.87 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57000~64000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500 円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恒進會病院 森上歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人「美木多園」のグループホームです。1階には、デイサービスが併設されており、玄関では、喫茶コーナーがあり、地域の方が気軽に立ち寄ってコーヒーなどを飲んでもらえるよう開放されています。ホーム内は、明るく、広く、生け花がたくさん活けられています。居室は、洗面やトイレが設置されており、いつでも家族が泊まれるよう支援されています。ベランダでは、季節の野菜やお花が植えられています。又、犬が飼われており、利用者の癒しに役立っています。サークル活動も盛んで、フラワーアレンジメントや押し花、絵手紙、書道を楽しまれ、地域の方や家族もお誘いし、一緒に参加できるように開放されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の取り組みを行うために、ライフスタイル充実委員会を発足させたり、カンファレンスや事例検討会で、職員全員が理解でき、統一出来るよう、意見や気づいたことを出し合い、更なる向上を目指しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については職員全員が、外部評価についての意義を理解し、計画作成担当者を中心に、職員や居室担当者から個々の話を聞き、カンファレンスや事例検討委員会で話し合い作成され、改善し努力しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、民生委員、児童委員、大学専任講師、市町村職員、地域包括支援センターや家族の参加があり、2~3か月に1回運営推進会議が開催しています。ホームの活動報告をし、地域や自治会からの情報を得る機会となっています。又、今後に向けてのターミナルケアや医療連携についての話し合いも持たれました。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪が多くあり、面会時には、直接コミュニケーションを取り、様子を伝え希望や意向を聞いています。又、ホームには、「声ボックス」を設置したり、「声シート」を用いて、ホーム会議などで話し合っています。第三者委員会を設け、直接申し出ることできるようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には、加入していませんが、自治会の催しものやイベント、地元の小学校区の盆踊りに参加しています。地域住民の方に、気軽に立ち寄っていただけるよう、行事案内や喫茶コーナー、フラワーアレンジメントや押し花、絵手紙、書道などのクラブ活動のお知らせをしています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会で安心して生活が営めるよう拠点施設となるよう努める等の5つの美木多園の理念を土台にして、入居者の方が職員と共に地域生活の中で生活できるように、思いをこめてグループホーム独自の理念が作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに、毎年事業計画や目標を立て、実践に向けて取り組んでいます。毎月の会議や研修などで、全職員に書面で配布し、スタッフ会議や勉強会などでも周知徹底を図り、継続しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には、入っていませんが、自治会や地域のイベント、催し物、地元の小学校区の盆踊りなどにも参加されています。ホーム内にある喫茶コーナーを地域の方に気軽に立ち寄っていただけるように、解放されています。又、ホームでの行事案内を地域の方に配布し、フラワーアレンジメントや押し花、絵手紙、書道等のクラブの活動お知らせをし参加を求めています。	○	ホームとして自治会に入り、地域での活動と一緒に協力していきたいと考えています。自治会への入会への話し合いも進められており、地域との活動が少しずつ現実になっていくことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々の申し送りや回覧で、外部評価の目的を説明し、カンファレンスや事例検討委員会などで話し合われています。又、前回の外部評価を受け、ライフスタイル充実委員会を発足させ、職員全員の意見を出し合い、改善に向けて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、児童委員、大学専任講師、市町村職員、地域包括支援センター職員などが参加される運営推進会議を2~3か月に1回行われています。ホームからの報告や地域からの情報などを得て、サークル活動や看取りのケア等のサービスの向上に努めています。		

グループホーム 美樹の園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での交流は余りありませんが、何かあった時には、相談や連絡ができる体制を作られ情報も得られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多くあり、そのつどコミュニケーションを取り、様子を伝えています。又、月に1回、請求書とともにイベントやお知らせを書面にて、写真や手造り作品も一緒に報告されています。金銭管理は、されていませんが、請求書と一緒に立て替え分を報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口には、利用者や家族からの「声ボックス」を置かれています。家族や利用者からの声を職員が「声シート」に記入し、職員会議などで全員で話し合わせ、希望の実現やホームでのサービスに反映しています。一周年記念には、家族全員が参加され、今後家族会を作る予定です。又、第三者委員会も設けられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の心身の状況に気を配り、日々のコミュニケーションを大切に、何でも言い合える関係を築かれ、退職者が少なくなるよう配慮しています。離職者があったときも、馴染みの関係作りができていない職員で、入居者のダメージの少ないよう取り組んでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホームでの研修を毎月しています。外部研修では、案内を職員に回覧し、希望を募ったり、内容を見て必要な職員が参加できるよう配慮しています。研修後は、参加できなかった職員にも周知出来るよう勉強会を兼ねて、報告をしています。又、外部からの講師を招いての研修を年に2～3回実施しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市と堺市南区のグループホーム連絡会に参加しています。又、連絡会の場所が、持ち回りで、他のグループホームとの行き来がされ、困難事例の相談や活動報告、記録物の書き方等について、話し合われています。地域包括からは情報も頂いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、家族や利用者からの情報を多く取り入れ、ホームでの環境に慣れていただけるように努力しています。ホームを家族とともに見学され、ホーム1階でのデイサービスを体験したり、イベントや催しなどに参加してもらい、雰囲気に馴染んで頂きながら入居の準備をしています。又、見学の際にはリビングで一緒にお茶を飲まれることもあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活歴やその時の状況に応じて、利用者の意思を大切に、出来ない部分を手伝うことを念頭に置き、コミュニケーションを取りながら、共に支えられる関係作りを努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、家族や利用者からの情報を得ています。ライフスタイル充実委員会や月に1回、居室担当者が、事例検討会で利用者の意向や家族の希望などの情報を話し合わせ、共有を図れるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者も一緒にケアを行いながら、センター方式をもとにつくられた道しるべを使い、アセスメントを行っています。家族とのコミュニケーションや居室担当チェック表、気付きカードなどを利用し、事例検討会議などで、意見を出し合い、ライフスタイル充実委員会や担当者会議で反映した介護計画を作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回ケアプランの見直しを行い、モニタリングや家族や医師参加のカンファレンスを行っています。状態の変化があった時には、その都度見直しをされています。今後、短期目標の3か月に1度の記録や見直しを検討課題とされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の買い物に出かけたり、ラーメンを食べたい利用者とかけることもあります。日帰りで、淡路島に行ったり、1泊2日で伊勢志摩に家族参加で出かけたこともあります。又、1階にあるデイサービスも利用されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を相談して決めています、又、2週間に1回の往診もあり、24時間電話連絡が取れる体制になっています。訪問看護、訪問歯科、訪問リハビリも利用しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、利用者や家族の希望を話し合っています。看取りを経験されたこともあり、利用者を中心に家族、医師、看護師、職員と話し合いを重ね、思いを共有しながら取り組みました。研修や地域運営推進会議での話し合いも行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、事務所の所定の鍵付きロッカーに保管しています。年2回外部の講師を招いての、接遇や言葉遣いの勉強会や研修会を行い、職員全員に周知徹底しています。又、職員同士でも、注意し合ったり、振り返る機会を作る努力もしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく、生活リズムを大切にしながら、起床時間や食事、睡眠など利用者一人ひとりのリズムに合わせたケアを心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューや調理は、委託業者が作っていますが、おやつや夕食を月に2回、利用者の好きなメニューを作っています。箸やお茶碗、湯呑は、利用者の好みのものを使っています。盛り付けや片付けを楽しみながら一緒にされています。	○	利用者と職員と一緒に買い物や下準備、調理をする機会を増やせるような工夫をしてみても、いかがでしょうか？
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は、13:00から20:30となっていますが、朝にいたい利用者や毎日入りたい利用者にも対応しています。拒否傾向のある利用者に対しては、足浴から始めたり、他の利用者からの声かけで気持ち良く入浴できるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内でのサークル活動があり、習字や手芸、編み物、ベランダで季節に合わせた野菜作り、お花作り等が日常の楽しみごととなっている方もいます。また、お花を生けたり、観葉植物の水やり、犬をベランダで飼われており、えさやりなどが役割となっていたり、時にはカラオケボックスに一緒に行くことの支援をし、気分転換をされる利用者もいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など希望があれば、いつでも行ける体制が整っています。カラオケボックスに出かけたり、日帰りや1泊旅行にも出かけています。又、外出拒否傾向の利用者には、食べたい物を聞いて購入し、職員と一緒に食べたり、コミュニケーションを取り、声かけを工夫し、行ってみたいと思って頂けるよう働きかけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが交通量の多い道路に立地しているため、エレベーターや階段は、鍵やロックをしています。時間に依るロックを解除したいと検討していますが、システム上できないため、出かけたときには、職員が付き添い、いつでも出られるようにしています。	○	ホームが2階にあり、1階に事務所やディスプレイがあるので、見守りをできる環境もあるため、日中の解放を検討されることを期待します。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受け、年に2回日勤帯と夜勤帯を想定し、避難訓練を実施しています。地域住民からの協力体制やネットワーク作りは出来ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、毎食記録しており、分量については、毎食時や午前、午後のティータイムで飲んでいただけるよう工夫しており、必要な利用者のみ記録しています。献立は、業者が立てており、バランスやカロリー計算を管理しています。又、毎食毎に、米飯やおかゆを選べるよう希望に応じています。きざみ食にも対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間や廊下には、観葉植物が置かれてあり、たくさんの生花が活けてあります。季節感を味わえるよう飾り付けがしてあり、廊下にはテーブルセットを所々に置いており、利用者がゆっくりと話ができるよう配置しています。又、ホーム内は、とても明るくレースのカーテンで遮光調整したり、テレビや音楽の音量にも職員がその都度配慮しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が今まで使っていたテレビやテーブル、イス、大切にされていた仏壇などを持ち込んでもらい、居心地の良い居室作りを工夫しています。又、家族から毎日届くハガキや今まで読んでいた本なども置かれています。居室には、トイレ、洗面が配置してあり、家族がいつでも一緒に泊まっていただけるよう配慮しています。		